

宿泊施設における環境配慮に関する研究 —京都市内の宿泊施設を対象として—

仁賀 崇之¹ 金谷 健¹ 京のアジェンダ21²
Takayuki Niga Ken Kanaya Agenda21 in Kyoto

1 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科

1 Department of Environmental Planning, The University of Shiga Prefecture

2 京のアジェンダ21

本研究では、京都市内の宿泊施設を対象とし、宿泊施設の環境配慮に関する取り組みの現状を把握するためにアンケート調査を行った。そして把握した現状を基に環境配慮の性質を明確にし、いくつかのタイプに分類した。これらの結果を受けて宿泊施設の環境配慮に対する取り組みを評価するためのシステムを提案した。

Key Words: environmental consideration, accommodation, evaluation system

1. 研究の背景、目的

1997年、京都市で国連気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）が開催された。そしてこれに伴い京都府、滋賀県における宿泊施設では環境配慮に対する取り組みをおこない、環境保全活動を盛上げていこうというキャンペーンが行なわれた。しかし、一旦このような取り組みが行われたにもかかわらず、さらなる継続的な取り組みはあまりなされていない。

また、京都にはKES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）という認証がスタートし、宿泊施設が気軽に環境配慮に対する取り組みに参加出来る仕組みが整っている。しかし、宿泊施設の環境対策は他業種に比べ、まだまだ遅れているのが現状である。

このような現状の中、「グリーン購入ネットワーク（GPN）」において、『宿泊施設的环境ガイドライン』の策定が進められている。このガイドラインは、一定の環境対策を行っている宿泊施設を自主申請により認定し、企業、官庁、個人等にそうした「環境にやさしい宿泊施設」の優先的な利用を促す仕組みであり、2002年4月の導入を目標に策定が進められている。このように、現在、宿泊施設における環境配慮ということが重要視されており、宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを促進させることが必要とされている。

そこで本研究の目的は、第1に京都市内の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状を把握し、宿泊

施設における環境配慮に対する取り組みの性質を明確化すること。第2にこの結果を受けて、宿泊施設の環境配慮に対する取り組みを評価するためのシステムを提案することである。

2. 京都市内の宿泊施設における環境配慮への取り組みについてのアンケート調査

（1）調査対象

対象宿泊施設は、京都市内の宿泊施設（京都市の観光案内所で紹介している宿泊施設＋京都公共宿泊施設連絡協議会に加盟している宿泊施設＋電話帳に載っている宿泊施設）で250件である。

（2）調査方法

調査は事前に対象宿泊施設に対して電話で調査を依頼し、調査の内諾を得た宿泊施設に2001年10月から11月に評価シートを郵送配布、郵送回収した。250件に電話で調査を依頼し、内諾を得た宿泊施設は180件、回答をいただいた宿泊施設は66件であった。66件のうちホテルが22件、旅館が42件、その他が2件であった。

（3）アンケート調査で使った評価シートについて

評価シート（表-1）とは、宿泊施設の環境配慮に対

する取り組みを評価するためのシートで、京のアジェンダ21が行なっているKRSの宿泊施設版チェックリストを基本とし、評価項目を再検討、削減し作成した。

この評価シートの記入方法は、取り組み状況に対して全面的に取り組んでいるなら【全面的に取り組んでいる】、【一部取り組んでいる】、【さらに取り組む】、【今後取り組む予定】の4つの選択肢から該当するものにチェックをする。【一部取り組んでいる】にチェックした場合はさらに取り組み意思のある場合のみ【さらに取り組む】にもチェックする。

3. 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状把握

宿泊施設の環境配慮に対する取り組みの現状を上記アンケート調査によって把握した。宿泊施設全体、ホテル・旅館別、中小規模・大規模宿泊施設別の3点からみることにする。表-1に本論分での宿泊施設の定義を示す。表-2に部門別の項目数を示す。

表-1 ホテル、旅館、大規模宿泊施設、中小規模宿泊施設の定義（カッコ内は調査件数）

ホテル	洋式の構造及び設備を主とする施設を設けている宿泊施設（22件）
旅館	和式の施設及び設備を主とする施設を設けている宿泊施設（42件）
大規模	客室数が300室以上の宿泊施設（8件）
中小規模	客室数が300室未満の宿泊施設（58件）

表-2 部門別の項目数

部門名	項目数
エネルギー消費	12
水の使用	9
紙の使用	7
一般廃棄物	7
悪臭・騒音・振動	4
グリーン購入	4
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	8
環境保全のための仕組み・体制	9
客室	12
レストラン・厨房	21

表-3～表-12に取り組みの現状を示す。

(1) 宿泊施設全体の取り組み現状

表-3～表-12により、どの部門においても取り組まれている事は、取り組む事によるメリットが明確で、機械・設備を新しく導入しなくても取り組めることや、整備・点検を行えばよい事、他の業者に委託する事に

よって手間や時間を省く事が出来る事であった。一方、取り組まれていない事は、機械導入などによりコストがかかることや、手間や時間が掛かる事である。

(2) ホテル・旅館別の取り組み現状

表-3～表-12により、ホテル・旅館両方とも取り組みやすい事は、メリットが明確である取り組みや、他業者に委託して手間や時間が掛からない取り組み、整備・点検などを行えばよい取り組みであった。両宿泊施設において特に大きな違いは見られないが、取り組まれていない事については、若干違いが見られた。それは、ホテル・旅館という宿泊形態の違いが関係してくるような取り組みである。

(3) 中小規模・大規模宿泊施設別取り組み現状

表-3～表-12により、中小規模・大規模宿泊施設両方とも取り組みやすい事は、メリットが明確である取り組みや、他業者に委託して手間や時間が掛からない取り組み、整備・点検などを行えばよい取り組みである事がわかった。全体的に見ると、大規模宿泊施設の方が環境に配慮した取り組みを行なっているように思われる。しかし、大規模宿泊施設では取り組みが0%である取り組みが、中小規模よりも多い。このことは、大規模になるにつれて、取り組みを行なう規模が大きくなり、費用的にも時間的にも余裕が無く、取り組めていないと考えられる。

表-3 エネルギー消費部門：

【全面的に取り組んでいる】割合

エネルギー消費	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。	3	5	3	4	0
自然エネルギー（太陽光の室内導入、通風の活用等）を積極的に活用している。	14	10	18	15	13
二重窓・扉の設置、フィルム貼り等により建物の気密性、断熱性を向上させている。	10	11	10	11	0
空調の適温化（室内温度の設定を夏は28℃以上に、冬は20℃以下）を実施している。	21	14	26	25	0
カード・キーの導入により節電を実施している。	10	29	0	9	13
空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的に実施している。	79	86	74	76	100
建物周辺、屋上等の緑化を実施している。	27	23	30	29	13
施設内の電球を電球型蛍光灯ランプに変更している。	18	26	15	17	25
屋外で効率的な照明管理を行っている。	24	34	20	27	0
屋内で効率的な照明管理を行っている。	17	14	21	20	0
使用エネルギーを必要なブロック、時間ごとに個別管理している。	25	27	25	25	0
パソコン、コピー機等のOA機器は、使用しない時は電源を切っている。	47	43	50	48	38

表-4 水の使用部門：【全面的に取り組んでいる】割合

水の使用	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
各工程（調理、食器洗浄、洗濯、客室・パブリックスペース等の清掃、など）で工夫し、水の使用量の削減を実施している。	36	44	33	37	33
蛇口（客室内も含めて）に節水こま（適量の水を流すこま）を設置している。	18	30	13	19	13
一度の操作で一定水量流れる蛇口の流水量の適正な調節を行なっている。	22	43	13	20	42
手元でシャースイッチを開閉出来るものを設置している	22	14	25	22	13
ワンハンドの混合栓、シングルレバーを設置している。	17	15	18	18	13
トイレに節水こま（タンク内に容器を沈める方法も可）を設置している。	21	20	23	25	25
その他節水型の機器、トイレ、シャワー等の使用を実施している。	14	29	8	15	13
水道配管からの漏洩を定期的に点検している。	55	68	52	52	87
女性用トイレに自動流水音装置を設置している。	3	5	3	2	13

表-7 客室部門：【全面的に取り組んでいる】割合

客室	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
客室ごとに空調管理ができる。	65	41	79	70	25
客室内で、リターナブルビンでの酒類、ジュース等の導入を実施している。	27	21	32	30	14
アメニティグッズの数を必要最低限にしている。	45	53	41	48	37
アメニティグッズは品質、耐久性を高め、顧客が持ち帰るように促している。	18	14	21	21	0
アメニティグッズの包装を簡易化している。	43	64	34	39	74
提供したアメニティグッズの内、使用されなかったグッズを再度提供している。	52	57	51	51	62
綿ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。	13	10	13	13	13
石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	62	62	64	63	62
分別回収ボックスを設置し、リサイクルを実施している。	22	33	18	20	37
使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。	84	77	91	89	62
宿泊客にタオル、シーツ、浴衣等の希望交換制を採用している。	27	23	28	27	25
顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関する意見、要望を問う項目を設けている。	13	25	8	12	25

表-5 紙の使用部門：【全面的に取り組んでいる】割合

紙の使用	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
会議用資料や事務手続書類の簡素化、減少を実施している。	34	55	24	35	38
使用済用紙の裏面を使用している。	63	72	59	59	87
両面印刷・コピーを実施している（無駄な印刷を削減している）	44	59	37	41	62
電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。	14	27	7	11	38
使用済み封筒の再利用を実施している。	41	50	35	37	62
トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。	15	15	15	13	25
トイレ用ペーパーは、芯なしのシングル巻き、再生紙を採用する。	22	29	17	20	38

表-8 グリーン購入部門：【全面的に取り組んでいる】割合

グリーン購入	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。	18	20	18	17	29
環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。	15	15	16	15	14
資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。	13	19	11	13	14
資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。（又は環境配慮している業者を選んでいる）	26	24	28	28	14

表-9 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出部門：

【全面的に取り組んでいる】割合

化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
有害性の恐れのある化学物質は、種類・使用量・保管量・使用方法・保管場所等を記録してフロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。	24	37	18	22	38
PRTR法に従いMSDS（化学物質安全性データシート）を使用している。（ドライクリーニング液等に対して）	51	65	47	49	74
使用（食器洗浄、洗濯、清掃など）する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹸等を採用している。	13	27	7	9	40
使用（食器洗浄、洗濯、清掃など）する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹸等を採用している。	17	0	22	19	0
害虫駆除剤、芳香剤、防湿剤、消臭剤は自然素材のもの、使用の削減に努めている。	22	27	22	23	20
ポリ塩化ビフェニール（PCB）が含まれる古い蛍光灯の交換と適正な処理に努めている。	40	59	29	35	71
水質汚濁の少ない工程・機器（食器洗浄、調理、洗濯、清掃など）を工夫し、採用している。	28	37	26	29	29
日常の管理における水質汚濁防止への配慮（水質処理装置の設置等）を行なっている。	27	33	26	29	14

表-6 一般廃棄物部門：【全面的に取り組んでいる】割合

一般廃棄物	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
使用する容器（飲料・洗剤等）の3割以上でリターナブル容器を使用している。	24	25	25	23	37
分別回収ボックスにより、ゴミの分別を徹底し、リサイクルを促進している。	30	47	18	23	75
石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	59	66	59	58	75
乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。	25	36	17	20	49
不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。	10	14	5	7	13
コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。	52	57	49	49	75
OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。	47	47	48	44	75

表－10 悪臭・騒音・振動部門：【全面的に取り組んでいる】割合

悪臭・騒音・振動	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
悪臭防止のため排出口（換気口）の位置等の配慮を行なっている。	51	68	42	47	72
ゴミの保管、管理を適切に行っている。	77	81	76	75	87
低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。	19	24	18	20	13
夜間照明による光害を防止するための措置を講じている。	31	30	31	26	57

表－11 レストラン・厨房部門：

【全面的に取り組んでいる】割合

レストラン・厨房	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
お食事時、追加のお茶、水の提供は顧客に尋ねてから注いでいる。	35	12	42	38	14
お食事メニュー、メモ、伝達事項は、黒板、ホワイトボード、回覧版の使用を実施している。	32	24	33	31	29
キッチンペーパーの使用量を削減している。	23	17	25	21	29
ラップの使用を削減又は全廃し、耐熱用、レンジ用容器を使用している。	5	6	5	6	0
どうしてもラップを使用する場合、塩化ビニルの食品ラップの代替を実施している。	29	44	24	27	50
通い箱（繰り返し使用する梱包材）を利用している。	25	31	23	26	17
ミルク、バター、砂糖、ジャム等の容器の個包装を廃止している。	18	12	21	18	17
ティーバッグでのお茶の給仕、提供を行っていない。	48	22	57	46	57
牛乳パック、食品トレーのリサイクルを実施している。	20	25	20	19	40
使い捨てのコースター、おしぼり、ペーパーナプキン、ストロー等を廃止している。	25	6	29	26	0
割り箸、使い捨て型食器類（皿、コップ、スプーン等）を廃止している。	8	6	7	8	14
割り箸をどうしても使用する場合、環境負荷を下げる工夫をしている。	9	13	8	8	17
お客様と食事の量や好みを事前に相談し、適切なものになっている。	15	18	12	13	14
食材の廃棄が少なくなるよう、残部の活用、調理・購入計画を見直している。	33	29	34	31	43
厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）、乾燥減量化している。	3	0	5	4	0
生ごみの水切りを行っている。	48	33	54	50	29
廃食油の劣化を防ぐ工夫をしている。	25	19	29	27	17
廃食油は適正に処理している業者に委託している。	70	88	63	70	86
天然又は、有害性の恐れのない養殖、飼育、栽培法を採用した調味料、肉、魚介類また、有機肥料、無農薬、減農薬野菜を使用している。	17	25	13	18	0
輸送エネルギーを削減するため、近郊（地場）で採れた食材を使用している。	17	13	18	18	0
栽培エネルギーを削減するため、旬の食材を使用している。	36	41	33	33	43

表－12 環境保全のための仕組み・体制部門：【全面的に取り組んでいる】割合

環境保全のための仕組み・体制	全体 (%)	ホテル (%)	旅館 (%)	中小規模 (%)	大規模 (%)
環境対応のための組織（役割分担や責任、権限など）が明確に定められている。	12	15	11	8	37
環境活動上必要な作業手順や運用基準が明確に定められている。	10	10	10	8	25
協力会社・関連会社・発注者等に環境保全の面から評価するとともに、その改善支援を行なっている。	8	5	11	8	14
委託契約等に環境配慮が契約管理に組み込まれている。	15	11	18	13	29
従業員の環境教育プログラムがある。	6	10	5	4	25
顧客・取引先・地域住民に自社の環境活動の取組みについて広報し、理解と協力を得ている。	13	11	15	12	29
環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している。	6	0	10	8	0
周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。	32	43	28	28	62
顧客、従業員のマイカーの利用を控えるよう奨励している。	23	33	20	22	38

4. 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質の明確化

京都市内の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状を考察する事によって、宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質（取り組みやすい・とりくみにくい）を明確にする事が出来た。宿泊施設全体、ホテル・旅館別、中小規模・大規模宿泊施設別における環境配慮に対する取り組みの性質を総合して考察する。ここでは、【全面的に取り組んでいる】割合が高いということは、取り組みやすいという事、【全面的に取り組んでいる】割合が低いということは、取り組みにくい事とする。

（1）『取り組みやすい』取り組みの性質

これらの取り組みの性質としては、大きく3つのタイプに分類する事が出来る事がわかった。①点検・整備型、②メリット明確型、③他業者依存型の3つのタイプである（表－13）。なお【全面的に取り組んでいる】割合が高い（取り組みやすい）取り組みについては、宿泊施設の形態や規模にはあまり関係がないという結果であった。

表－13 取り組みやすい性質（30％以上）

例	取り組みやすい性質	説明
使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。(84)	①メリット明確型	取り組みことによるメリットが明確である取り組み
ゴミの保管、管理を適切に行っている。(77)		
使用済紙の裏面を使用している。(63)		
自動、シンク、ペー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。(62)	②点検・整備型	点検や整備、管理、処理を行う取り組み
空調、冷房設備の保守点検・整備を定期的に実施している。(79)		
客室ごとに空調管理ができる。(65)		
水漏れからの漏洩を定期的に点検している。(55)		
悪臭防止のため排出口（換気口）の位置等の配慮を行っている。(51)	③他業者依存型	他の業者に作業を依頼、委託する取り組み
ポリ塩化ビフェニール（PCB）が含まれる古い蛍光灯の交換と適正な処理に努めている。(40)		
廃棄物の適正に処理している業者に委託している。(70)		
フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。(51)		

（2）『取り組みにくい』取り組みの性質

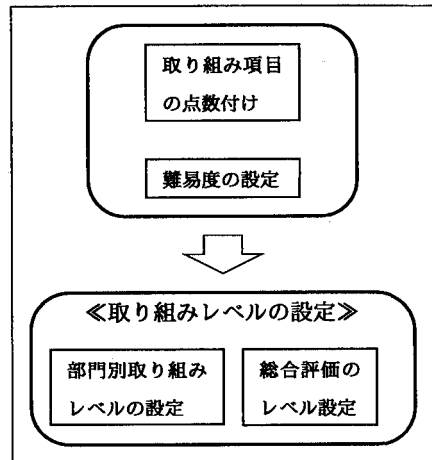
これらの取り組みの性質としては、①お客負担型、②環境配慮特化型、③手間・工夫必要型、④機械・設備導入型の4つのタイプである（表－14）。なお【全面的に取り組んでいる】割合が低い（取り組みにくい）取り組みについても、宿泊施設の形態や規模によって多少の違いがみられるものの、全体的な傾向として同じであった。（表－13、表－14では%の高い取り組み項目を抜粋して載せている）

表－14 取り組みにくい性質（30％未満）

例	取り組みにくい性質	説明
客室内で、リターナブルビンでの酒類、ジュース等の導入を実施している。(27%)	①お客負担型	お客に何らかの負担、不快感などを与える可能性のある取り組み
通客にタオル、シーツ、浴衣等の希望交換制を採用している。(27%)		
空調の節温化（室内温度の設定を夏は28度以上、冬は20度以下）を実施している。(21%)	②環境配慮特化型	グリーン購入や環境保全の仕組みなど環境配慮に特化した取り組み
資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。（又は環境配慮している業者を選んでいる）(26%)		
顧客、従業員のマイカーの利用を控えるよう奨励している。(23%)		
環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。(18%)	③手間・工夫必要型	手間や時間を掛けたり、工夫を必要とする取り組み
どうしてもラップを使用する場合、塩化ビニールの食品ラップの代替を実施している。(29%)		
水質汚染の少ない工程・機器（食器洗浄、調理、洗濯、清掃など）を工夫し、採用している。(28%)		
日常の管理における水質汚染防止への配慮（水質処理装置の設置等）を行っている。(27%)		
建物断熱、屋上等の緑化を実施している。(27%)	④機械・設備導入型	何らかの機械・設備を導入しなくては出来ない取り組み
屋外で効率的な照明管理を行っている。(24%)		
トイレトーパーは、芯なしのシングル巻き、再生紙を採用する。(22%)		

5. 評価システムの提案

ここでは、3での現状把握、4での性質の明確化に基づき、宿泊施設において環境に配慮した取り組みが促進される（裾野を広げる）事を目的とした、宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを評価するためのシステムを提案する（図－1）。ここでの評価とは、相対評価であるので基本的に他の宿泊施設ができる事は、他の宿泊施設でも取り組むことができると考える。



図－1 評価システムのフロー

（1）取り組み項目の点数付け

取り組み項目の点数は、それぞれの項目によって満点が異なっている。それは取り組み項目によって難易度が異なるからである。難易度は【全面的に取り組んでいる】宿泊施設の%で考えた。この%が低いほど難易度が高く、この%が高いほど難易度が低いとした。この難易度は【AA】、【A】、【B】、【C】の4つに分類した（表－15）。この難易度は取り組み項目の点数付けに使用する（表－16）。

表－15 難易度の設定範囲

【AA】	0 ≤【全面的に取り組んでいる%】 < 10
【A】	10 ≤【全面的に取り組んでいる%】 < 30
【B】	30 ≤【全面的に取り組んでいる%】 < 50
【C】	50 ≤【全面的に取り組んでいる%】

表-16 取り組み項目の点数付け

『全面的に取り組んでいるの点数』	(100%-【全面的に取り組んでいる%】)×1/10
『一部取り組んでいるの点数』	『全面的に取り組んでいるの点数』×1/2
『さらに取り組むの点数』	難易度が【AA】の場合=0.5
	難易度が【A】の場合=0.4
	難易度が【B】の場合=0.3 難易度が【C】の場合=0.2
『今後取り組み予定の点数』	全て0.1

(2) 取り組みレベルの設定

取り組みレベルの設定は2種類作成した。1つは、部門別の取り組みレベルの設定である。これは各部門ごとの取り組みを評価し、各部門のレベルを設定する(レベル1～5)。もう1つは、総合評価のレベルの設定である。これは、宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを、総合的に評価し、対象となる宿泊施設全体(宿泊施設自体)のレベルを設定する(☆～☆☆☆☆)。取り組みレベルの設定の方法を表-17に示す。

表-17 取り組みレベルの設定方法

部門別	総合評価	設定方法
レベル1	☆	$X \leq (\text{平均値} - \text{標準偏差})$
レベル2	☆☆	$(\text{平均値} - \text{標準偏差}) \leq X < (\text{平均値})$
レベル3	☆☆☆	$(\text{平均値}) \leq X < (\text{平均値} + \text{標準偏差})$
レベル4	☆☆☆☆	$(\text{平均値} + \text{標準偏差}) \leq X < (\text{平均値} + \text{標準偏差} \times 2)$
レベル5	☆☆☆☆☆	$(\text{平均値} + \text{標準偏差} \times 2) < X$

【X: 各宿泊施設での取り組み項目の合計(部門別、総合評価)】

(3) 評価の仕方

評価の仕方としては対象となる宿泊施設ごと表-16の方法で、取り組み項目ごとの点数を付ける。これを各部門ごとにまとめ、各部門ごとの取り組みを点数化し、その点数に応じて取り組みレベルを認定する。そして最終的には各部門の取り組みレベルを総合評価し、宿泊施設自体のレベルを認定する。

6. 提案した評価システムによる京都市内の宿泊施設の評価

(1) 部門別の評価(宿泊施設全体)(表-17)

どの部門の取り組みも、レベル2とレベル3の取り組みが、最も取り組まれている割合が高いということがわかる。このことから、全体的な傾向としてどの部門の取り組みもレベル2、3までは比較的取り組みやすい(取り組む事が可能である)が、レベル5、6とレベルが高くなると、取り組む事が困難になるということがわかる。

表-17 部門別取り組みレベル(件) ()の数値は%

部門名/レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
エネルギー消費	9 (14)	25 (38)	26 (39)	3 (5)	3 (5)
水の使用	12 (18)	28 (42)	15 (23)	8 (12)	3 (5)
紙の使用	10 (15)	22 (33)	26 (39)	5 (8)	3 (5)
一般廃棄物	12 (18)	20 (30)	21 (32)	13 (20)	0
悪臭・騒音・振動	12 (18)	21 (32)	18 (27)	7 (11)	8 (12)
グリーン購入	21 (32)	11 (17)	24 (36)	5 (8)	5 (8)
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	15 (23)	16 (24)	27 (41)	6 (9)	2 (3)
環境保全のための仕組み・体制	9 (14)	32 (48)	17 (26)	4 (6)	4 (6)
客室	9 (14)	25 (38)	24 (36)	6 (9)	2 (3)
レストラン・厨房	9 (14)	26 (39)	19 (29)	11 (17)	1 (2)

(2) 総合評価(宿泊施設全体、ホテル、旅館別)(表-18)

ホテル、旅館の宿泊施設のタイプ別に関係なく☆☆の宿泊施設と☆☆☆の宿泊施設の割合が高い。また、☆☆、☆☆☆の宿泊施設の割合を合計すると72%もの宿泊施設が何かしら環境に配慮した取り組みを行なっているということがわかる。このことから京都市内における多くの宿泊施設では、環境配慮に対する取り組みを全く行っていないというわけではない、という事がいえる。しかし、全体の14%もの宿泊施設がまだ☆の宿泊施設であるということは、まだまだ京都市内の宿泊施設では環境配慮に対する取り組みの重要性、必要性ということが認知されていないという事が言える。

表-18 総合評価結果(件) ()の数値は%

	☆	☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
ホテル	2 (9)	9 (41)	7 (32)	3 (14)	1 (4)
旅館	7 (17)	16 (38)	14 (33)	2 (5)	3 (7)
その他	0	1 (50)	1 (50)	0	0
全体	9 (14)	26 (39)	22 (33)	5 (8)	4 (6)

7. まとめ

7-1 京都市内の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状

現状として、よく取り組まれている取り組みは、宿泊施設の形態の違い、宿泊施設の規模の違いに関係なく、全体的に同じ様な取り組みである。それは、取り組む事によるメリットは明確で且つ機械などの導入の必要が無い取り組み。整備・点検を行えばよい取り組み。他業者に委託する取り組みである。一方で、あまり取り組まれている取り組みは、宿泊施設の形態、規模によって若干の違いがみられた。

7-2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質

『取り組みやすい』取り組みの性質は ①メリット明確型、②点検・整備型、③他業者依存型の3タイプである。『取り組みにくい』取り組みの性質は①お客負担型、②環境配慮特化型、③手間・工夫必要型、④機械・設備導入型の4タイプである。

7-3 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの評価システムの提案

(1) 評価システムの仕組みのまとめ

宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状把握、性質の明確化に基づき評価システムを提案した。ここでの評価というのは相対評価である。この評価システムでは、まず取り組み項目の点数付けを行った。この点数付けは取り組み項目ごとの難易度と関係している。したがって、このために、取り組み項目の難易度を設定した。次に、部門別の取り組みレベルの設定、総合評価のレベルの設定をおこなった。

(2) 評価システムによる調査結果まとめ

宿泊施設のレベル別の取り組み傾向を把握する事が出来た。☆の宿泊施設では、本研究で明確にした【取り組み

みやすい取り組み】に関しても取り組みのレベルはあまり良くない。☆☆・☆☆☆の宿泊施設になると【取り組みやすい取り組み】の取り組みレベルは☆の宿泊施設よりも全体的に良くなり、【取り組みにくい取り組み】に関しても少し取り組み始める。☆☆☆☆・☆☆☆☆の宿泊施設になると、【取り組みやすい取り組み】に関しては全体的に非常に高いレベルで取り組みられ、【取り組みにくい取り組み】に対しても最低でもレベル3という比較的高いレベルの取り組みをしている。

謝辞：アンケート記入にご協力をいただいた京都市内の宿泊施設の皆様に深く感謝します。

参考文献

- 1) 朝日新聞(朝刊):p.27 (1997.9.2)
- 2) 京のアジェンダ21ホームページ
<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21/>
- 3) 深井純一：京都市内の宿泊施設の廃棄物問題に関する調査報告(2000)
- 4) 溝口和宏：ホテルにおけるエネルギー消費・環境対策に関する研究(1999)
- 5) グリーン購入ネットワークホームページ
<http://eco.goo.ne.jp/gpn/index.html>

The environmental consideration in accommodation A case study in Kyoto City

Takayuki NIGA, Ken KANAYA, Agenda21 in Kyoto

In this research, in order to grasp the present condition of the measure about the environmental consideration of accommodations for the accommodations in a Kyoto city, the questionnaire was performed. And the character of an environmental consideration was clearly classified into some types based on the grasped present condition. The system for evaluating the measure to the environmental consideration of accommodations in response to these results was proposed.